

[災害支援対策事業] 災害支援対策事業報告

○明間 順子(和歌山県作業療法士会)
林 辰博(大阪府作業療法士会)
平松 良啓, 中原 啓太(兵庫県作業療法士会)
花崎 将樹, 市田 忍(京都府作業療法士会)
木納 潤一(奈良県作業療法士会)
團孝 圭太(滋賀県作業療法士会)

皆様は「JRAT」をご存知でしょうか？最近では災害リハビリテーションといえば「JRAT」ですね？と言われる機会も少しずつ増えてきています。私が初めて災害リハビリテーションに携わることとなったきっかけは平成25年に大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会(JRAT)が開催した災害リハビリテーションコーディネーター養成研修会に和歌山県チームの一員で参加したことです。それと同時に近畿作業療法士連絡協議会においても災害時の対応についての重要性が話し合われ、連携事業の一つとして災害支援対策事業が始まったのです。その平成25年からすでに7年が経とうとしており、この間にも災害は多くありました。その度に災害への意識は高まり、災害リハビリテーションは少しずつ知られてきているように思います。ただし、聞いたことはあるが、よく分からないという方も多いと思います。各府県にて研修会等も開催していますので興味を持って参加し、知って頂きたいと思っています。

今回の事業報告では、現在各府県の災害支援対策に関する活動について和歌山県を中心に報告します。近畿の災害となると考えなければならないのは南海トラフ巨大地震です。南海トラフ巨大地震の30年以内の発生確率は70%～80%と言われています。そのためいつ発生してもおかしくないという意識を持つ必要があります。和歌山県では令和元年11月23日(土)に和歌山 JRAT 発足記念式典が開催され、現在はリハビリテーションに関する職種だけでなく行政や他職種や業者等も一緒に会議を開催し、組織化・マニュアル作り・人材育成等を実施しはじめています。このような活動をしていく中で、何よりも顔の見える関係が構築できてきていることが大きな収穫となっているように日々感じています。そしてそれは近畿作業療法士連絡協議会での活動でも同様であり、いつ・どこで起こるか分からない災害に対して支援・受援について考え、準備・活動するということは「つながり」をなくしては困難です。

今回の報告を聞いて頂き、災害を他人事ではなく、自分個人の事として、職場として、OTとして、様々な立場で捉えて身近なものとして興味をもって頂く機会となって頂きたいと思っています。そして「つながり」をもって、みんなで備えていきましょう。まずは興味をもつことから始めて頂きたいと思っています。